

稿 虫

KŌCHŪ

イノウエチビゴモクムシの採集例

井上 寿・花田 勉

イノウエチビゴモクムシ *Acupalpus inouei* HABU は、筆者らが十勝農試構内で蛍光誘殺灯（白色20W）により採集した標本が、土生博士（1980）によって新種記載されたものである。

本種は体長3.5 mm 内外，体幅1.4 mm 内外で，近縁のキイチビゴモクムシ *A. inornatus* BATES よりもやや小型であり，この属ではもっとも小さい。上翅は黒色で虹色の光沢を有し，斑紋は変化があって，会合線にそった縦紋は翅端部の斑紋と連なって翅端で僅かにふちどられるものから，かなり大きな紋を有するものまであり，また肩紋は消失したものから体のほぼ半ばに達する大型の紋となるものなどがある。

採集例としては，河西郡芽室町において1977年に28頭，1978年は25頭，1979年には49頭で，これらはいずれも蛍光灯に飛来したものであり，6月上旬から8月中旬にわたって得られたが6月が最盛期のようなのである。個体数は少なくないのであるが，蛍光灯以外ではこの3年間採集できなかった。ところが本年6月に草地に設置したpit-fall traps で得られ，草地で生活していることはわかったが，これ以上の生活史については目下のところ不明である。

文末ながら同定を賜った土生利申博士に御礼申しあげる。

- 1) HABU, A., 1973, Fauna Japonica, Carabidae, Harpalini, 325-337.
- 2) HABU, A., 1980, Ent. Rev. Jap. 34 (1, 2) : 75-81.
(〒082 北海道河西郡芽室町 十勝農業試験場)

キマダラヒメヤマカミキリの食樹

平井 勇

キマダラヒメヤマカミキリ *Dymasius hirayamai* MATSUSHITA は，日本では沖縄県与那国島で採集されているが，幼虫の食樹などに関する報告はない。

筆者は，1980年2月4日に与那国島宇良部岳のハゼノキ（ウルシ科）より，蛹室内にいる本種1♀を割り出した。蛹室は，直径3 cmほどの太さの枯枝の樹皮下に，辺材部を浅く掘って作られたものであった。その後，同島

より持ち帰った材から1980年3月23日に別の本種1♀が自宅にて羽化脱出したが，この材の木のなかにハゼノキはなかった。ハゼノキが本種の食樹の1つであることは確認できたが，本種は雑食性であるように思われる。

(〒359 所沢市狭山ヶ丘1-3002-11)

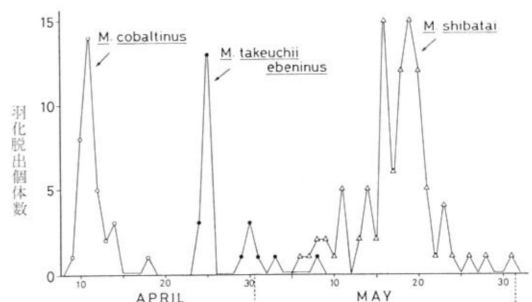
奄美大島産 *Molorchus* 属3種の越冬と羽化

常喜 豊・橋本三郎・黒田祐次

奄美大島産のヒゲナガゴバネカミキリ属 (*Molorchus*) は，現在のところコバルトヒゲナガゴバネカミキリ *M. cobaltinus* HAYASHI, タケウチヒゲナガゴバネカミキリ *M. takeuchii ebeninus* HAYASHI, シバタヒゲナガゴバネカミキリ *M. shibatai* HAYASHI の3種が知られている（以下，コバルト，タケウチ，シバタと略記）。筆者らは1979年1月，同島において採集を行った際，これら3種の越冬，およびその後の羽化脱出について若干の知見を得たので報告する。

(1)寄生は，コバルトがカラスザンショウ*（八津野および湯湾岳にて採集），タケウチ・シバタが共にミミズバイ（三太郎峠および赤土山林道にて採集）であり，後2種は同じ枯枝の同じ部分に混在していた。また，現地での割出しによりコバルトとタケウチがすべて成虫で得られたのに対し，シバタは現地で蛹であったものが，持ち帰ってのちに羽化したものである。よってこれら3種の越冬形態は，コバルト，タケウチが成虫，シバタが蛹であると考えられる。

(2)筆者の1人常喜が，京都に持ち帰って室温で放置した材からの成虫の羽化脱出状況は下図のようであり，3種の脱出ピークがはっきりと分かれる。このことは野外における実際の羽化脱出状況を，ある程度反映していると思われる。また，シバタの羽化脱出が，他の2種に比べてより長期にわたってだらだらと続くのは，この種が蛹で越冬することの影響であると考えられ，このことからしても，成虫越冬は発生の一斉化に非常に有利である



と言えそうである。

- *1) 豊島亮司・加藤泰久(1979) ELYTRA, 7 (1): 18.
 (常喜: 〒606 京都市左京区北白川追分町, 京都大学理学部動物学教室内)
 (橋本: 〒655 神戸市垂水区天ノ下町12-14)
 (黒田: 〒770 徳島市春日1丁目1-31)

ヒラヤマコブハナカミキリを7月に採集

平井 勇

ヒラヤマコブハナカミキリ *Pyrotrichus bicolor* (OHBAYASHI) は、本州・四国・九州各地で散発的に記録がみられるが、東京都高尾山以外での採集数は非常に少なく、稀なカミキリの1種である。

筆者は静岡県富士山で7月に本種を採集したので報告する。

1 ♀, 静岡県富士宮市富士山中腹表富士周遊道駐車場, 3. VII. 1978 (飛翔中の個体)

この記録は従来報告されている本種の採集場所の環境, 時期, 季節感に比べ著しく特異なものと思われる。

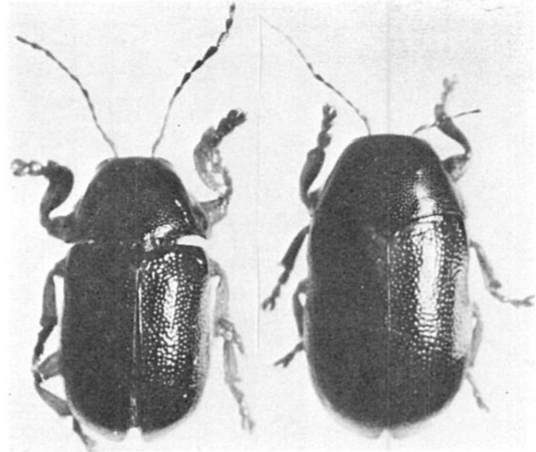
(〒336 所沢市狭山ヶ丘1-3002-11)

ツマキクロツツハムシ岡山県に産す

今坂 正一

ツマキクロツツハムシ *Cryptocephalus difformis* JACOBY は、珍しい種のように、原産地日光, 本元による阿寒国立公園(1964)および三重県鳥羽市沖菅島(1980)の3例が知られるのみである。

本種の西限記録となる岡山県産の個体を山地治氏より



ツマキクロツツハムシ (左: ♂, 右: ♀)

いただいているので記録しておきたい。

1 ♂ 1 ♀, 岡山市高松町, 26. IX. 1974, 山地治採集
 同地はケブカマルクビカミキリの多産地として有名であるが、岡山付近の低地に多いただのマツ山に過ぎない。従来の記録はすべて8~10月の採集例であるが、食樹が発見されれば、案外広く分布しているものなのかも知れない。

本種の体色は黒色で、足・触角基部および上翅の側縁・末端部, 小楯板周辺は黄褐色である。写真からも分かるように、♂の前脛節は幅広く広がり、*Cryptocephalus* 属の種としてはかなり特異である。

貴重な標本を恵与いただき、発表を許された山地治氏に厚く御礼申し上げる。

(〒855 島原市白土町1064)

ELYTRA Vol. 9, No. 1

昭和56年6月25日 印刷

昭和56年6月30日 発行

編集者 藤田 宏

平山 洋人

発行者 草間 慶一

発行所 日本鞘翅目学会

Japanese Society

of Coleopterology

東京都台東区東上野4-26-8

福田惣一方 ☎ 110

c/o, FUKUDA, 4-26-8,

Higashi-Ueno, Taitō-ku,

Tōkyō Japan

印刷 株式会社大和印刷

編集後記

今号は、益本仁雄氏が印刷費の一部を負担して下さったこともあり、Vol. 6, No. 1 (1978)をしのぐ、ELYTRA はじまって以来の厚い号となりました。毎号このくらいの会誌が出せるとすごいのですが、そのためにはもっと会が大きくなるとだめなのです。身近な甲虫屋さんで、まだ本会に入っておられない方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さいますようお願いいたします。

そろそろ世代交代(?)を、ということで今回は平山洋人君にも編集を手助ってもらいました。

(1981年5月23日, 藤田 宏)